



*Kurashiki  
Academic Winds*

*The 3rd Concert*

*November 6, 1994*

## GREETINGS

---

本日は第3回発表演奏会にご来場くださりまして心より御礼申し上げます。

石の上にも3年、結成当初は生みの苦しみを味わいながらも、絶えず皆様方の暖かいご支援とご助言をいただきつゝ、今日まで色々の苦勞を何んとか乗り越えてきましたことに重ねて厚く御礼申し上げます。

これらのことを日々の心、そして音楽への糧として、我々はお互いにとり合った手に熱気を感じ、心身の絆を一層強め、確かめ合って音楽への厚い願望と、心の豊かさを実感しつつ、励んでいます。この願望と豊かさは、我々音楽に深く興味・関心をいだく者にとって究極の願いではないでしょうか！

この演奏会を又よき契機として現状に浸ることなく、よい音づくりを目指して、日々精進していきたいと存じております。

ご支援を賜りました皆様方に厚く御礼を申し上げますと共に、今後も何卒よろしくお願い申し上げます。

倉敷アカデミックウインズ団長 **平松 正登**

本日は私たち倉敷アカデミックウインズ第3回演奏会にお越し下さりまして誠にありがとうございます。倉敷アカデミックウインズは1992年に発足した、まだまだ若い一般吹奏楽団です。

「音に苦しみ、音を楽しみ、音を愛する」ことをテーマに、これまで演奏会を中心に活動して参りました。今回は会場を昨年5月の第1回、今年3月の第2回の水島公民館から、ここ倉敷公民館大ホールに場所を移し、第3回演奏会を開催する運びとなりました。私たちのような未熟な楽団にとっては年2回の演奏会は大きな冒険ではありますが、半年前から準備に取りかかり、練習に励んで参りました。しかしながら、技量不足、楽器不足などもあり未熟な点も多く、結果として周囲の皆様にご多くのお力添えをいただくこととなりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

メンバー一同精一杯演奏いたします。最後までごゆっくりお楽しみください。

倉敷アカデミックウインズ総務 **小原 則行**

# PROGRAM

---

## First Stage

コンサートマーチ「テイク・オフ」 ◆ 建部 知弘／藤田 玄幅 補作  
*Concert March TAKE OFF* TOMOHIRO TATEBE / GEMBA FUJITA

歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲 ◆ ビエトロ・マスカーニ  
"CAVALLERIA RUSTICANA"～INTERMEZZO PIETRO MASCAGNI

「アルルの女」第2組曲よりファランドール ◆ ジョルジュ・ビゼー  
"L'ARLESIENNE" SUITE No.2～FARANDOLE GEORGES BIZET

吹奏楽のための第2組曲 ◆ アルフレッド・リード  
*SECOND SUITE for BAND (Latino-Mexicana)* ALFRED REED

- I. *Son Montuno*
- II. *Tango ("Sargasso Serenade")*
- III. *Guaracha*
- IV. *Paso Doble ("A la Corrida!")*

## Second Stage

リバティ・ファンファーレ ◆ ジョン・ウィリアムズ  
*LIBERTY FANFARE* JOHN WILLIAMS / Arranged by JIM CURNOW

タイプライター ◆ ルロイ・アンダーソン  
*THE TYPEWRITER* LEROY ANDERSON

クラリネット・キャンディー ◆ ルロイ・アンダーソン  
*CLARINET CANDY* LEROY ANDERSON

トロンボナンザ ◆ フランク・D・コーフィールド  
*TROMBONANZA for Trombone section and Band* FRANK.D.COFIELD

想い出のサンフランシスコ ◆ ダグラス・クロス & ジョージ・コリー  
*I LEFT MY HEART IN SAN FRANCISCO* DOUGLASS CROSS & GEORGE CORY  
Arranged by ALFRED REED

コーラスライン・メドレー ◆ マービン・ハムリッシュ  
*A CHORUS LINE MEDLEY* MARVIN HAMLISCH / Arranged by K.MORITA

## PROGRAM NOTE

### コンサートマーチ「テイク・オフ」

マーチは本来歩く速さで書かれた2拍子の曲を指しますが、演奏会での鑑賞を目的とした行進曲をコンサートマーチといい、拍子やテンポにとらわれない自由な形式を持って書かれます。

この曲は題名の「テイク・オフ」（＝飛行機などが離陸する）が示すとおり、大地からの飛翔を連想させる爽やかな行進曲です。1986年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲として作曲されました。

### 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲

イタリアの作曲家、マスカーニ（1863～1945）の代表作として知られているこの歌劇は、ヴェルガの同名の短編小説を題材として1890年5月に作曲された1幕物で、ローマのコンスタンツィ劇場で初演されました。物語は19世紀のシチリア島を舞台にした恋愛悲劇で、この間奏曲は兵隊帰りの青年トゥリドゥが妻を他の男に寝取られたことに気付き、にわかに周囲が切迫した場面で演奏されます。前後のステージが極めて強烈なだけに、あたかも嵐の前の静けさを思わせるかのようで、しかしながら激しい雰囲気をも十分に内包したこの曲が劇中で素晴らしい効果を生んでいます。

### 「アルルの女」第2組曲よりファランドール

歌劇「カルメン」でも有名なフランスの作曲家ビゼー（1838～1875）は、パリのヴォードヴィル座の支配人の依頼によりフランス自然主義の作家ドーデーの戯曲の付随音楽として1872年にこの曲を完成させました。物語は、旧家の長男フレデリが闘牛場で出会ったアルルの女に恋をするが周囲に認められず、家族の薦める縁談を承諾するが、聖エロアの祭日のファランドールの踊りの中にアルルの女を見つけると耐え難くなって自殺するというもので、この「ファランドール」は、まさに劇のクライマックスで演奏されます。第1組曲の前奏曲に現われた「3人の王の行進」のテーマのあとに、プロヴァンス太鼓に導かれて「ファランドールの踊り」が始まります。時折哀しい旋律を挟みながらも、主人公の悲劇的な最期とは無関係に祭りは最高潮に達して終わります。

### 吹奏楽のための第2組曲

A. リードは1921年にニューヨークに生まれ、現在もウィンドアンサンブルのための数々の名曲を生み出しています。この曲は、彼がイリノイ州スターリング高校ウィンドアンサンブルから委嘱を受けて書いたもので、曲は4つの楽章から成っており、いずれもラテンアメリカの音楽様式を用いています。

#### 第1楽章 ソン・モンテューノ

キューバやカリブ海の島々の音楽であるカリブソに似た2拍子の軽快なリズムを基本にしています。

#### 第2楽章 タンゴ（サルガッソー・セレナーデ）

有名なアルゼンチン風タンゴではなくブラジル風のタンゴで、終始穏やかなムードのする夜曲です。

#### 第3楽章 グワラチャ

"グワラチャ"とはアルゼンチンの酒盛りの歌で、2拍子の生き生きとした賑やかな曲です。

#### 第3楽章 パソ・ドブレ（ア・ラ・コリーダ！）

パソ・ドブレは通常闘牛場のマーチですがここでは舞曲風に書かれています。伝統的なファンファーレがトランペット、クラリネット、フルートによって3回繰り返され、その後3+2拍子の形の5拍子のパソ・ドブレとなり、木管を中心に華やかに歌われます。途中、3拍子のメロディが現われてから再び5拍子に戻り、クライマックスでは長調に転調して華やかに終わります。

### リバティー・ファンファーレ

ジョン・ウィリアムズは主に映画音楽の作曲を手がけている1932年ニューヨーク生まれの作曲家で、S.スピルバーグ監督の「ジョーズ」「E.T.」などでアカデミー作曲賞を受賞しています。近年、「ホーム・アローン」や「ジュラシック・パーク」にみられる彼の音楽は現代音楽としても評価を得ており、今後の活躍が期待されます。

この曲は1986年の夏、ニューヨークにある「自由の女神」像の100周年記念修復完成セレモニーのために作曲され、J.ウィリアムズとボストン・ポップスによって初演されました。

## タイプライター／クラリネット・キャンディ

ルロイ・アンダーソン（1908～1975）はアメリカのケンブリッジに生まれ、弦バスの奏者としてボストン・ポップスで演奏をしていたところ、アーサー・フィードラーに認められて同オーケストラの専属編曲者兼指揮者として活躍しました。第2次世界大戦後、軍隊を除隊した彼はポピュラーとクラシックの間ともいべきポップス（またはセミ・クラシック）の分野に属する数々の名曲を生み出しました。彼の作品は「ジャズ・ピチカート」や「フィドル・ファドル」など弦楽器の特性を生かしたもの、「トランペット吹きの休日」「クラリネット・キャンディ」など特定の管楽器が活躍するもの、「シンコペイテッド・クロック」「タイプライター」「踊る子猫」「サンドペーパー・バレエ」などの擬音を用いたもの、「そりすべり」「舞踏会の美女」「ブルー・タンゴ」などの情景を描写した曲が挙げられますが、いずれもが親しみ易くて肩のこらない楽しい曲です。また彼が管楽器のために魅力的な曲を多く残しているのはハーバード大学時代に吹奏楽の指導をしていたため吹奏楽用の楽譜もほとんどが彼自身の編曲によるものです。

「タイプライター」は題名のとおりタイピストがタイプライターを打つ様子を描写した曲です。旋律の16分音符の動きにあわせて、キィをたたく音、「チン」と言う行が終わる音、「ジャー」という改行の音が入ります。

「クラリネット・キャンディ」は2本のクラリネットがユニゾンで、ときには甘い和音を奏でながら陽気に駆け回る楽しい曲です。

## トロンボナンザ

3本のトロンボーンが吹奏楽を伴奏に活躍します。トロンボーン特有のグリサンド奏法を織りまぜながら、威勢よく、あるときは滑稽で、同時に落ち着いた暖かい響きを持ったこの楽器の特性を生かした南国調の愉快な曲です。

## 思い出のサンフランシスコ

1954年にD.クロス（作詞）、G.コーリー（作曲）のコンビで書かれたサンフランシスコのローカル・ヒット（ご当地ソング）。1962年に名シンガーとして知られるトニー・ベネットが唄ったことで一躍世に広まり、現在では世界中で愛されるスタンダード・ナンバーとなりました。

本日演奏するアレンジは、A.リードが原曲の持ち味を巧みに生かしたピースで、大ヒットの翌年1963年に出版されましたが、彼は全く同じ構成のオーケストラ用アレンジも書いており、そちらのほうも全米各地のポップス・オーケストラで愛演されています。

## コーラスライン・メドレー

1975年の初演以来ブロードウェイでロングランヒットし、映画にもなったミュージカル「コーラスライン」より4曲を選んでメドレーにしたものです。物語は、新作のミュージカルのオーディションで受験者たちがプロデューサーの厳しい課題に挑むうちに自分自身を見つめ直し、最後には合格した者もそうでない者も晴れ晴れとオーディション会場を後にするという心暖まるストーリーです。曲は、始めにビールのCMでおなじみの「ワン」次に一転してアップテンポの「音楽と鏡」、ゆったりとした「バレエではすべてが美しい」、印象的なバラード「愛は消えない」へと続き、最後にはもう一度スケールアップした「ワン」で華々しく終わります。

# THE LIST OF MEMBERS

## FLUTES & PICCOLO

江口 敏子  
岡田 正美  
小野 寛子  
近藤 昭子  
○野中 友雄  
船曳 浩司  
山口 裕子

## CLARINETS

安宅 忠司  
岡野 律子  
小野由紀子  
国富 美子  
水川かおり  
森 久仁江

## BASS CLARINET

渡辺 順子

## SAXOPHONES

蒔田 朋子  
藤田 裕子

## TRUMPETS & CORNETS

藤岡 光広  
藤原 裕之  
藤原 靖彦  
吉浦 理夏  
吉本 雅夫

## HORNS

河内美由紀  
河手 道浩  
●石田 泰規

## TROMBONES

浅尾 恵  
○小原 則行  
佐藤 直道  
高見 康彦

## EUPHONIUMS

市場 美雄  
○大原康次郎  
林 くみ子  
佐藤 裕史

## TUBA

矢尾 哲平  
●辻田 将一

## CONTRABASS

安宅 美香

## PERCUSSION

今川真由美  
堂守 智実  
福島 牧子  
若松 直也  
若松真美子  
森本 将光

○… 指揮  
●… 賛助

ごいっしょに吹奏楽しませんか？

倉敷アカデミックウインズでは、ただいま団員を募集しております。学生時代に吹奏楽を経験された方で、その後も演奏活動を続けていきたいと思われる方、ぜひ一度見学にいらしてください。

技術も伝統もまだまだこれからというバンドですが、私たちと一緒に楽しみませんか？

詳しくは倉敷アカデミックウインズ事務局(086-463-1340 若松)までご連絡ください。